

道央・国語 実施報告

【キーワード】

- ◆現代の国語
- ◆「話し合うこと」の実践
- ◆生きて働く「知識・技能」

- 実施日 令和7年11月19日(水)
- 会場 北海道美唄尚栄高等学校
- テーマ 「国語科における探究的な学びの充実」
- 参加者 道央ブロックの各管内から14名(オンライン含む)

実施状況

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、「授業研究チーム」を編成し、オンラインで学習指導案の検討を実施しました。

〔構成員〕 授業者 北海道美唄尚栄高等学校教諭 早川 絵理花
協力員 北海道滝川高等学校教諭 藤宮 隆明
北海道石狩翔陽高等学校教諭 小美濃 今日子
北海道寿都高等学校教諭 山田 翼
行政 高校教育課 柴田 朝幸 道立教育研究所人材育成部 眞野 春香

実施日	検討内容	主な意見等
8月22日 (1回目)	①単元の目標及び 実現状況 ②評価方法 ③生きて働く〔知 識及び技能〕と は	①これから検討を重ねる中で、単元の目標と、単元の学習を終えた生徒の望ましい姿(「おおむね満足できる状況」(評価B))については、常に意識することが必要。 ②記録に残す評価として「話し合うこと」を見取る方法について、グループディスカッション(以下「GD」という。)を録画するか、ディスカッションは何回行うことにするかなど、最も適切な方法を検討する。 ③GDの結論の出し方については、第2次で学習する予定の主張と論拠の関係性を活用できているか着目したい。
9月29日 (2回目)	①「よい」GDとは ②言語活動の工夫	①合意形成に向けてグループで納得感の高い結論にしようとすることや、全員に発言の機会があること、議論が煮詰まったときに別の視点を与えることなどを想定。 ②単元の目標の実現状況を適切に見取るために2回GDを行うこととする。1回目のGDを通じて「よい」GDについて焦点化したものをクラスで共有し、それを2回目のGDで確認するといった方法を取ることが有効である。
10月22日 (3回目)	①ワークシートの 工夫 ②GDのテーマ	①第2次(3時間目)に使用するワークシートについては、今次の目標に合わせて項目を工夫することが必要。例えば穴埋め形式など、ある程度「型」を示した方が、生徒にとっては目標の実現に向けて取り組みやすくなる。 ②第3次におけるGDのテーマは、単元名にある「結論の出し方」や「合意形成のための話し合い」を行いやすいように、課題解決型で身近なテーマを複数用意し、生徒に選ばせるようにしたい。

研究授業の実施

[単元の指導と評価の計画・学習指導案リンク](#)



[ワークシートリンク](#)



【研究授業】

〔授業者〕北海道美唄尚栄高等学校教諭 早川 絵理花

〔対象生徒〕1年1組 21名 〔科目〕現代の国語 〔領域〕話すこと・聞くこと

〔単元名〕結論の出し方を工夫して、合意形成のための話し合いをしよう

〔本時の目標〕グループディスカッションのテーマについて話し合う中で、合意形成に向けて進行の仕方や結論の出し方を工夫することができる。

〔本時のポイント〕

- (1) 「よい」GD にするための進行の仕方や結論の出し方についての工夫(前時で生徒とともに定義付けたもの)について確認
 - ア 司会・進行役を決める
 - イ 全員が意見を出し、納得できる結論を目指して協力する
 - ウ 否定から入らない
 - エ 相づちを打つなど、聞いている姿勢を示す
- (2) GD の実践
 - ・テーマ「勉強の意欲を高めるための効果的な方法は何か」について、グループ内での合意形成に向けてディスカッションを実施(GDの実施状況については記録に残す評価のために録画)
 - ・各グループ7分、教室前方に設置したディスカッション用の座席で順番に実施(計4グループ)
- (3) 指導上の工夫
 - ・GDを行うグループ以外は、そのGDの様子を観察し、ワークシートに設定した項目(「発言内容」、「進行の仕方」、「結論の出し方」など)について気付きを記入するよう促す
 - ・全グループのGD終了後、グループごとに自分たちのディスカッションについて振り返り、改善点等を Google スプレッドシートにまとめるよう促す
 - ・(1)ア～エについては常に意識させるように、教室前方のモニターに提示しておく など

【研究協議】

- 〔協議のテーマ〕 1 生徒が、主体的に学習課題の解決に向かうための指導の工夫について
2 生徒が、生きて働く〔知識及び技能〕を身に付けるための指導の工夫について

〔主な意見〕

- ・言語活動を「何のために行うのか」ということについて生徒に意識させることが必要である。
- ・生徒自身の言語生活と関連付けた学習課題を設定することで、主体的に解決に向かう動機付けが図れるのではないかと。
- ・生きて働く〔知識及び技能〕については、〔思考力、判断力、表現力等〕と関連付けながら育成するよう、単元の構成を工夫することが効果的であると。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- ・授業者が生徒の学習状況等をよく理解しており、目標を実現するための効果的な仕掛けがしっかりと考えられた実践で大変参考になった。
- ・グループディスカッションの実施に至る過程にまで踏み込んで指導した良い実践だった。
- ・〔知識及び技能〕が、個別の知識ではなく、使えるようになってはじめて知識と言える、ということを確認できた。
- ・「話すこと・聞くこと」の実践を見る機会が今までなかったので、大変参考になった。特に「話し合うこと」については、本校の生徒も課題としている領域であるため、単元の構成等を参考に実践したい。
- ・細部まで指導計画が練られている実践だった。特に、主体的に学習課題に取り組ませるための工夫や生徒へのアプローチの仕方を実際に見ることができ、今後の授業に活かせる知見が多く得られた。

【アンケートの結果(一部)】

- 1 国語科における「探究的な学び」や「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まったか
 - ・大いに深まった 38%
 - ・深まった 62%
- 2 今回のセミナーは、今後の授業改善に役立つか
 - ・大いに役立つ 31%
 - ・役立つ 69%